

2月20日 若年女性ワークショップ 次第

とき 平成28年2月20日（土）

13:00～16:30

ところ 北本市役所会議室3-E、F

内容	時間	所要
1 開会	13:00～13:02	2
2 あいさつ	13:02～13:05	3
3 ワークショップについての説明	13:05～13:20	15
4 自己紹介、関心事項の共有	13:20～13:50	30
5 グループ別ワークショップ	13:50～14:40	50
① 関心事項の掘り下げ		
② 解決策の検討		
休憩	14:40～14:50	10
6 グループ案の発表	14:50～15:20	30
7 全体ワークショップ	15:20～16:05	45
① 仮投票		
② 提案について検討		
8 最終評価	16:05～16:10	5
休憩	16:10～16:15	5
9 結果確認、その他	16:15～16:30	15
10 閉会	16:30	

○ワークショップの運営について

- 1 広報紙等へ写真掲載を希望されない場合は、会場の担当までご連絡ください。
- 2 机上の簡易席札については、本名以外での呼び名をご希望の場合は、別の面にひらがなで記入してください。
- 3 自由な議論のため、事務局以外の撮影、録音は禁止とさせていただきます。
- 4 限られた時間内での幅広い意見交換のため、発言は簡潔にお願いします。
- 5 話し合いでは感情的、否定的な発言をお控えください。
- 6 途中の休憩のほか、必要により出入りいただいて結構です。

11月28日市民ワークショップにおける12案への意見

分野	内容
1、2 産婦人科・小児科の充実	1 娘が7月に出産を予定しているが、市内の産院は1か所のみ。結局は嫁ぎ先で産むことにしました。安心して里帰り出産できる病院を選べるようにしてほしい。
	2 産婦人科・小児科が減少したのは、お産の対象者が減少したため。必要性は認めるがこの12項目の推進で人口減少に歯止めをかけるには無理がある。
	3 ・子どもを産みやすい環境、そして育てやすい環境の整備を(税の減免)、子ども料金制度の導入(中学生以下) ・財源案としては、市の利用料金の値上げ(体育センター、総合公園、コミュニティセンター、文化センター等) 高齢者(60歳以上)の割引制度の廃止
	4 現在妊娠中ですが、北本には産婦人科が一つしかなく、また、そこも1月から土曜日が午前中のみになってしまい、働いている人にとってはとても不便です。また、産院も車でないと行けない所ばかりなので、とても不安です。
5 出産支援、子育て、児童手当の充実	5 「妻が就業の世帯」において、北本市は埼玉県、全国平均より子どもが多い傾向にある為、保育所入所の条件は兄弟入所を優先事項の上位にすべきだと考えます。兄弟入所ができないと二園送迎など親の負担は増し家庭で時間の余裕を持てなくなる。働き方の変更や転職を余技なくされることもある。待機児童ゼロだけではなく「兄弟入所ができる自治体」としてアピールすれば共働き子育て世帯に優しい街となるのではないか。
	6 小学校における放課後子ども教室の充実、公開授業による地域交流など地域で子育てをもっと実現させてほしい。放課後子ども教室はパート就業等でも利用しやすく大変助かっており、地域や他世代の方々との交流ができ子どももとても楽しんでいる。しかし、給食のある日しか開講しておらず、弁当持参で夏休み等も数日実施するなど充実させてほしい。高齢者参加の子育て支援は高齢者は子ども達に知恵や人生で学んだ技術を教え、高齢者は子どもから元気や学ぶ心を一緒に育んでいけるととても良い取り組みになると思う。
	7 家賃、親や職場との距離により居住が決定されていることから「近居」している世帯に家賃補助などをすると若い世帯の転出を防げるのではないか。UR賃貸住宅でも近居割引をしている。最近の住宅事情で同居よりも片道1時間以内の近居に住む家族が増えている。市内に親世帯が居住しており、同居ではなくても同じく市内に近居している若い世帯、あるいは逆の親世帯への補助を行ってはどうだろうか。
	8 現在の緊急課題は人口減少を容認するのではなく、人口増加をどうやって図るかであると思う。産科や道路・公園の充実での解決は難しい。人口を増加させるには、若年夫婦に転入してもらい、住み続けてもらうことが必要。出生率が高い地域を参考にすることが必要がある。 このためには、安価な住居の確保、出産費用の無料化、子育て費用の援助、保育所待機児童数をゼロにする必要がある。 取組には多額を要するため、無駄な歳出を削減することが必要とされる。

分野	内容
3 道路、街路灯、 施設整備による キレイなまちづくり	<p>9 他市に比べれば北本市の方が道路事業は良好であるが、北本市も細く狭い道路が多い。一方通行の導入を検討してほしい。</p> <p>10 LED街路灯の整備が進み、明るく歩きやすくなってきていると感じています。ただ、市内すべての道路をまんべんなく照らすことは物理的に難しい。人目が少なくなる場所や過去の犯罪発生地でのセンサーによる一時的な明るさアップが可能な照明の採用、自治会の玄関灯の輪番制で道の照度の確保の提案と推奨呼びかけ、ひったくりなどが発生してしまった場合の赤色回転灯を主要LED防犯灯に追加し周囲に異常を知らせやすくなる工夫、などの方法もご一考いただきたい。</p>
4 公園、子供・家族が遊べる環境の整備	11 意見なし
6 高齢者、障がい者サービスの充実	<p>12 専門家の意見を入れて、市内の医療、看護、福祉の横の繋がりを作り、地域包括ケアシステムを構築、実践することが急務である。在宅ケアを必要とする対象は増え、往診や訪問看護の支えが必要となる。それを実践するマンパワーも必要。また、高齢者向けサービスや施設ケアの質評価も定期的に行い、今の北本市にどのような施設やサービスが不足しているか、現状の問題点は何かを把握し対応する。社会的弱者が何を望んでいるのかを直接聞く機会を作るべき。</p> <p>13 高齢者が病気になった時の在宅での看護や介護の充実。自宅への訪問診療をしている医師は2～3人なので、もっと人数が増えるような対策をとってほしい。単身高齢者への生活支援を充実してほしい。</p>
7 若年夫婦のための安価な団地の造成、産院、幼稚園などの設置	14 意見なし
8 高齢者の参加による子育て支援	15 意見なし
9 圏央道周辺の開発	16 市民の声を聞くことはもちろん好ましいことではあるが、そのため生活レベルの提案が多くなりがちだと思います。どのようなことを行うにしても予算が必要であり予算に限られる中で考えても限界があるし、縮小均衡になりがち。圏央道が開通し交通のネットワークが拡大したことを利用してさらに企業を誘致するなりして税収を増やし、そこで得た税金を様々な魅力ある施策を展開する中で市民に還元するような考え方をすれば、もっと住みたい、市外から人口も流入する魅力ある北本市ができるのではないかと。

分野	内容	
10 駅前のにぎわい、買い物の利便性の向上	17	行政がプランを作成して商店街を育成する必要がある。ただし、商店の努力が前提であるけれど。
	18	北本駅西口に農産物直売所を誘致してほしい。場所はJA西口建物内および広場。JAに働きかけて、第二の桜国屋とするほか、商工会議所にも働きかけ、地元産業の商品も同時に販売してほしい。 地元農家が潤うほか、新鮮な野菜や地元商品を買いやすくなります。市民参加により蕎麦、うどんを販売すると、高齢者も気軽に訪れやすいです。
	19	40代より若い世代が買い物できる場所の充実。
11 老若男女、市民が1日・2日まち中でイベント開催	20	和光市の「なべグランプリ」は12回も開催され、老若男女が集い14万人も来たそうです。北本も皆が参加できるイベント、カレーまつり、トマト料理集合とか、正月の七福神めぐりは良かったけれど、若い方は少なかった。若者も含め、家族で楽しめるものをお願いします。
	21	趣旨は理解できるが、行政が関与するべきことではないと考える。
12 高崎線の代替となる交通機関の確保(広域での実施)	22	高崎線不通時のバスを確保してほしい。 久喜から川越への交通機関(バス等)の充実を希望。
	23	石戸小、西中出身者ですが、現在はさいたま市〇〇区に住んでいます。都内勤務者からすると、通勤が不便だからです。不便さを超える何かがないと、若い世代は呼べません。家を購入したところで、資産価値が上がるとも思えない(施策なし)。 新駅建設すら見送り、正直、公園等、子どもが遊べる環境は都心より整っています。投資する施策については、もっと検討した方がいいと思います。 成功している市町村のモデルケースを市民に情報提供する等、有権者のレベルアップも必要かと。
	24	仕事などで電車を毎日使っていますが、北本は高崎線がストップすると移動できなくなってしまうので、とても困っています。せめて、大宮まで行ければいいということがたくさんあります。
13 その他	25	人口が減少しているので新駅は必要ではない。
	26	私は、12案に選ばれなかった(A3. B5. C8. D10. F1)の空き家を格安で活用を支持します。今ある市内の余剰資源を活用して(A4. A7. C2. D6)行政の手を入れてでも子育て支援をする、企業誘致(A5. B6. C5. D3.)にも取り組まねばならないが国際的な誘致合戦、新築住宅より人手の掛る改築で仕事量確保できる。何よりも空き家が増えゴーストタウン・シャッター通り化を防ぐ事に依り生活環境(B2. B7)の悪化も改善されるのではないかと思います。
	27	無駄な箱物や新駅は不要。血税の無駄使いをしないでほしい。子供は子供、高齢者は高齢者、障がい者は障がい者、商店街は商店街、と個々の概念を分けて考えるよりも、全てを統合して対応できるシステムや施設を作してほしい。また今後、財政難が予想されるならば、早めに桶川など近くの市町村が合併することも考えてほしい。
28	生活面でも産業面でもこれを推進するといったメッセージある施策、補助金・助成金もなし。資金がなくてできないのなら、資金を得る施策、努力を。そのための創業・起業の推進、産業の活性化が必要では。単に、税金を食うだけの個人だけでは税金の入りも出も、政策にも限界があるでは。	

若年女性ワークショップへの事前提案

提案 1		ファミリーサポートの利用料への助成
利用者 ニーズ	(現状)	保育所でみてもらえない時に、ファミリーサポートを活用したいが、費用が高く、利用できません。
	(目標)	負担を軽減し、多くの人が活用できるようにしてほしい。
取組内容		入間市で限定的に半額としている制度を拡大し、すべての利用者を半額としてほしい。
社会的メリット		現在は負担が大きく、預かり会員も少ないため、あまり利用されていないけれど、安く利用できると預かり会員も増えて預けやすくなり、多くの女性が助かるのではないのでしょうか。

提案 2		日本一の保育環境の実現
利用者 ニーズ	(現状)	就業形態や、家族の状況により、保育園では足りない場合がある。
	(目標)	保育園において、すべての利用者のニーズへ対応する。
取組内容		八潮のようにきちんとした保育園を駅前に設置するほか、上越のように、夜間も対応する。
社会的メリット		子育て応援都市において日本一を目指す以上、不可欠なのではないか。

提案 3		駅周辺の駐車場、駐輪場情報の案内
利用者 ニーズ	(現状)	駅の周辺で個人所有地の駐車場を貸し出している場合があるけれど、簡単に見つけることができません。
	(目標)	スマートフォンで金額や空き情報を確認できるようにしたい
取組内容		駐車場の情報を、ホームページで公開する。
社会的メリット		駅から遠い自宅からでも、駅への通勤が楽になる。 駅周辺の土地が有効活用される。

提案 4		産科・小児科への交通手段の確保
利用者 ニーズ	(現状)	都会から転入しようとする際に、自動車のない人は、公共交通が少ない北本では苦労が大きい
	(目標)	出産や、通院のための負担を軽減する
取組内容		デマンドバスや、タクシーを利用しやすいように支援する
社会的メリット		若い夫婦で、夫の通勤と含め車を2台所有することは難しい。普段は自転車を利用するが、緊急時は安価に公共交通を活用できると、安心して暮らせる。

提案 5		土日保育の延長・実施
利用者 ニーズ	(現状)	<ul style="list-style-type: none"> ・土日も平日同様の就業時間の職場は少ない ・土曜日は17時までの保育時間であり勤務時間と合わず利用できない。時短や出勤不可で調整している現状もある。
	(目標)	希望に応じて土日も平日同様7時～19時まで保育可能
取組内容	土曜日17時以降はステーションのように1園へ児童を移動させて延長保育。日曜は1園開所とする。	
社会的メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・平日保育20時延長よりも現実的かつ利用者が多い。 ・転職や働き方を選ばず、より多くの女性が、育児とともに、自分の能力を生かして活躍できる。 ・所得とともに、納税額も増大する。 	

提案 6		近居の世帯への支援
利用者 ニーズ	(現状)	・住宅事情では親と同居よりも片道1時間以内の近居を選択する世帯が多い
	(目標)	市内に二・三世帯に渡る居住世帯を増やし、子育て・介護に安心の街を目指す
取組内容	市内に親世帯が居住しており、同じく市内に子ども世帯が近居している世帯へ住宅補助等の支援	
社会的メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子ども世帯が近くに住むことで子育て・介護に安心の街づくりとなる。 ・何世帯にも渡り長く北本市に住んでもらえ住民税・固定資産税など収入増。 	

提案 7		北本版ネウボラ支援
利用者 ニーズ	(現状)	<ul style="list-style-type: none"> ・産後2ヶ月前後に自宅への赤ちゃん訪問はあるが、検診に来れない世帯には支援が途切れている。 ・子育て支援センターは保育所を利用していない場合踏み込みにくく、支援が分かりにくい。
	(目標)	切れ目のない子育て支援で北本に住み続けたいと感じてもらう
取組内容	訪問を継続的に行い、検診未受診の世帯を支援。プランナーとして助産師や保健師・保育士を配置	
社会的メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・出産・産後の育児相談、幼稚園や保育所選びなどを専門スタッフに相談でき切れ目のない子育て支援を行う。 ・ネグレクトや虐待などの子どもの早期発見。 	